

宇宙の子どもへ Love Song

山木康世作詞・作曲

君が生まれて みんな遠くから
やって来て君を祝ったよ
近所の犬や猫も
裏庭に集まりみんなで花火上げた
葡萄畑に蛍が飛んだ
夏の夜空に星が流れた

君は本当に よく来たね
町へようこそこの星へ
君が希望の未来へ
夜遅く更けるまでスイカ食べながら
葡萄畑に蛍が飛んだ
夏の夜空に星が流れた

空を流れる 天の川
小舟浮かべて祈ったよ
北斗七星オリオン座
みんなで歌った宇宙の子どもへ Love Song
葡萄畑に蛍が飛んだ
夏の夜空に星が流れた



山木康世プロフィール
1974年フォークグループ「ふきのとう」『白い冬』でデビュー。詞に重きを置き世代を越えてみんなが口ずさめる歌を目指している。モットーは「Simple is the best」。義理と人情の少なくなった現代人の干上がった心に少しでも潤いを。95年の阪神大震災では2日間の救護コンサートを行う。代表曲に武田鉄矢氏との共作『思えば遠くへ来たもんだ』『白い冬』『思い出通り雨』『春雷』『やさしさとして思い出として』

第8回井上レディスクリニック Wリボンチャリティイベント

山木康世リ・フレッシュコンサート

2002年4月27日(土) 午後4時～6時

NPO MOTHER SHIP


INOUE LADIES CLINIC

ごあいさつ

第8回のコンサートにお越しくださりありがとうございます。今回は2年前に完成した銅板人形「ラブ・ソング」にふさわしい素敵なメロディーができました。作者である山木康世さんの懐かしいアコースティックギターによるコンサートを楽しんでいただきたいと思います。

スペイン語で「出産」のことを「Part」と言いますが、これは「出発」という意味もあるそうです。このクリニックでは毎日新しい命との出会いがあり、新鮮な感動の中、新しい家族の出発を見送っていただけることに、幸せを感じています。こんな平和な光景が次の世紀にも続いていけたら、守っていけたらと強く思います。

「リフレッシュ」すること、たまには必要です。ラブソングに心揺れて輝いていた季節の自分、思い出して、少し優しい気持ちになって、リフレッシュできたら、また明日に向かって出発！元気に頑張りましょう。

URL <http://www.m-ship.net/ilc> 2002年4月27日 NPO MOTHER SHIP 代表 井尾 裕子

【Art of healing】 聖路加国際病院の理事長・日野原重明先生の言葉です。「癒しのわざ」、医学は病気を治すわざですが、人を癒すのが医学だけではないことはご存知でしょう。芸術もまた心を治すわざだと思います。音楽や絵やいろいろな芸術作品も心を癒すのにとっても大切なモチーフです。心のheartという文字の中には、artがちゃんと入っています。この病院では、院内のいたるところ、heartを込めて作られています。

「Love Song」

Love song in your heart あなたの心に残るラブソング
人生の中でいくつかの Love Song に出会います。
” Love Song ” この言葉から、皆さんの心の中に思い浮かぶ歌はどんなメロディーでしょうか。長い人生の中で恋をしている季節はとても短いかもしれません。でも時折、心に秘めた Love Song を思い出して、輝いていた自分の思い出を大切にしていきたいものです。歌には不思議な力があります。「Art of healing」聞いているだけで心とむ、そんなメロディーと人生でいくつも出会い、大切にしまっておきたいと思います。
この銅板人形のモデルは、約4年前、当院で男の子を出産された後、不幸にして、99年7月、肺ガンにて他界された緑さんというフルート奏者です。今でも、赤ちゃんの「光くん」を抱いて、得意気に退院した姿が忘れられません。宇宙に旅立った緑さんに” Love Song ” を贈ります。



創作 赤川政由氏

NPO MOTHER SHIP

NPOとは、Non-profit Organization の略で、様々な非営利活動を行う非政府、民間の組織であり、通常民間非営利組織と呼ばれています。阪神・淡路大震災では、多くのボランティアが救援に駆け付け、いくつものNPOがその活動を支えました。98年には、NPO活動を支援することを目的に、任意団体に法人格を与える特定非営利活動促進法（NPO法案）が制定されました。

私たちは、生まれてくる新しい「いのち」との出会い、そしていつかは迎える別れまで、ずっと「いのち」の大切さを考えていきたいと、NPO「MOTHER SHIP」を設立しました。「MOTHER SHIP」には、新しいいのちを産み出し、育む母親達の船、皆の心の立ち寄れる場所としての母なる船などの意味をこめています。NPO「MOTHER SHIP」は、近いうちに法人化する予定です。

1980年代の終わり、米国でエイズが社会問題となってきたころ、ニューヨークのアーティスト達が、エイズで命を落とした仲間達に対する追悼の気持ちとエイズに苦しむ人々への理解と支援の意思を示すためにレッドリボンシンボルにした運動を始めました。この運動は、その考えに共感した人々によって国境を越えて広がっています。レッドリボンはエイズ患者・HIV感染者の方々に対する理解と支援のシンボルです。このリボンをつけることでエイズに対する偏見や差別をなくする、という気持ちを表しています。



アメリカでは、8人に1人が乳がんにかかるため、ピンクリボン運動と呼ばれる啓蒙活動が展開されています。アメリカの女性たちの乳がん啓蒙キャンペーンから始まったこの活動は、胸にピンクのリボンをつけることにより定期的検診と自己管理の大切さを理解し、周囲の人々に乳がんの認識を促すことを目的としています。日本でも40歳以上の女性の死亡率のトップは乳がんの時代になりました。大切な家族、友人のためにも乳がんの早期発見から早期診断をアピールしていただけるようにとの願いをこめています。

